



院長
真崎 雅和



「匂い」分かりますか？

今回は五感の一つである嗅覚かぐかについてお話します。嗅覚が障害されると、周囲の環境の変化や有害な匂いに気付くことに遅れたり、風味が分からなくなるため味覚も低下するなど、日常生活に大きな影響を及ぼします。

匂いを感じる細胞（嗅細胞）は鼻の上の方、ちょうど天井にあたる場所であり、嗅細胞で感知した匂いの情報は神経を介して脳に伝えられます。同時に、脳の好みや記憶を担当している部位にも伝達され、匂いの好き嫌いを判断し、匂いに関する記憶も呼び覚まされます。生まれたばかりの赤ちゃんでも、母親の羊水や母乳の匂いを嗅ぎ分けて、自分の母親を認識していると考えられています。また、嗅覚機能は女性の方が優れていると考えられており、もしかすると女性の勘の鋭さに一役買っているのかもしれない。

健康な人であっても、加齢とともに嗅覚は徐々に低下していきます。これは嗅細胞の減少や機能低下によるものと考えられています。加齢による嗅覚低下はゆっくりであるため、気付かずに過ごしていることが多いのですが、60歳代頃より急激に進行し、嗅覚の低下を自覚する方が増えてきます。

嗅覚の低下には、加齢以外にもさまざま

な要因があります。その多くは風邪、副鼻腔炎、アレルギー性鼻炎など鼻水、鼻づまりが生じる病気で、鼻の病気が原因となる嗅覚の低下は、鼻づまりのために匂いが嗅細胞まで到達できない場合、風邪のウイルスなどにより嗅細胞自体がダメージを受けている場合、さらにこの両者が同時に起こっている場合があります。

診断は、まず鼻の中を観察し、嗅覚低下の原因となる鼻の病気の有無を確認し、嗅覚低下の程度を検査で判定します。

嗅覚障害の治療の基本は、原因となっている病気の治療です。鼻水、鼻づまりが良くなったにもかかわらず嗅覚低下が続く場合は、嗅細胞自体がダメージを受けている可能性があります。このような嗅覚障害に対する治療は、点鼻薬、内服薬に加え、最近では嗅覚のリハビリテーション療法も提唱されていますが、回復までに時間がかかることも多く、治療も長期間にわたります。風邪の後に嗅覚の低下が長引く場合は、耳鼻科医に相談してみてください。



診察時間が近づいたことをお知らせする
メールサービスを
約30分前
ご利用ください。
ご希望の方はメルアドを受付へ!!



急患随時受付

診療時間	月	火	水	木	金	土	日・祝
午前 8:30~12:00	○	○	○	○	○	○	休診
午後 3:00~6:30	○	○	○	休診	○	△ 3:00~4:00	